

大会第2日 10月27日(木) 9:15～12:00 スペシャル・セッション

C 会場

気候形成の統合的理解—気候科学における基礎研究の推進と地学・地理教育との連携—

座長：植田 宏昭（筑波大生命環境）

- C201 中山 秀晃（気象予報士会） 高校地理教育における気候分野の扱いと課題
- C202 宮坂 貴文（東大先端研） 夏季北太平洋亜熱帯高気圧の形成力学
- C203 三瓶 岳昭（会津大） 梅雨降水帯の形成と大規模循環場の力学
- C204 川崎 健太（三重大院生物資源） オホーツク海が存在が及ぼす梅雨強化メカニズム
- C205 早崎 将光（環境研） 低気圧活動の気候学
- C206 三寺 史夫（北大低温研） 海洋循環の西岸強化とロスビー波
- C207 加藤 内蔵進（岡大・教育・理科） ドイツと日本の冬から春への季節進行と季節感（春を迎える行事「ファスナハト」と「節分」に注目して（その2））

座長：野沢 徹（岡山大自然科学）

- C208 植田 宏昭（筑波大・生命環境） チベット高気圧の形成と変動
- C209 高谷 康太郎（京都産大） シベリア高気圧／冬季東アジアモンスーンの変動
- C210 西川 はつみ（北大低温研） 大気循環に影響する北太平洋移行領域周辺の流動構造
- C211 松本 淳（首都大院都市環境、JAMSTEC/DCOP） モンスーン気候
- C212 増田 耕一（JAMSTEC） 「ケッペンの気候区分」を引退させてそれに代わるものを考えよう
- C213 立花 義裕（三重大院生物資源） オホーツク海高気圧再考と高校地学地理